



たくましい経営体の発展と、  
がんばる新規就農者の定着を  
わたしたちは全力で応援します。

令和7年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

## はじめに

田川普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画で示された5つの目指す方向のもと、『たくましい経営体への発展と、がんばる新規就農者の定着を、わたしたちは全力で応援します。』を活動のスローガンに、「人づくり」、「ものづくり」、「地域づくり」を重点目標として普及活動を展開しています。

令和6年度は、「環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地の育成」及び「香春町の農業・農村の活性化～多様な人材が活躍できる持続可能な里づくり～」の2課題を重点課題に位置付けるとともに、管内の農業者の経営発展や野菜・果樹・花き産地の維持拡大、さらに新規就農者をはじめとする担い手の育成の課題に取り組んでまいりました。

具体的な活動の実施にあたっては、管内農業者の皆さま、並びに市町村、JAをはじめとする関係機関の皆さまにご理解とご協力をいただき、この場を借りてお礼を申し上げます。

この成果集は、今年度の活動の概要を地域の動きと併せてまとめたものです。ご一読いただけると幸いです。また今後、より一層普及指導活動が充実したものとなるよう、お気づきの点についてはご意見、ご指摘をいただきますよう、お願いいたします。

農業を取り巻く情勢をみると、常態化している異常気象や資材価格の高騰に加え、特に田川地域では高齢化の進行による後継者不足も深刻化しており、対策を講じなければならない課題が山積しています。

普及指導センターとしましては、今後とも地域の関係機関をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーとの連携を図りながら、一つずつ課題を解決することで、農家経営の発展と地域農業の振興に向けて活動してまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

令和7年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

センター長 松本 忠之

### (表紙の写真説明)

- 左上・・・安定生産に向けたぶどうの剪定講習会(果樹花き係)
- 右上・・・ICT機器を活用したいちごの栽培技術指導(野菜係)
- 中央・・・盆出しケイトウの栽培技術指導(果樹花き係)
- 左下・・・新規就農者に対する経営計画策定研修会(地域係)
- 右下・・・農作業安全のための機械研修会(水田農業係)

## 目 次

<b>1 普及活動の主な成果</b> .....	1
(1) 環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地育成	
(2) 香春町の農業・農村の活性化	
(3) 新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援による担い手育成	
(4) 水田農業担い手の経営強化	
(5) 信頼される小松菜産地の育成	
(6) いちじく『とよみつひめ』産地の強化	
(7) トルコギキョウ産地の維持及びケイトウ産地の拡大	
<b>2 管内の動き（トピックス）</b> .....	10
(1) 青年農業士、女性農村アドバイザーの交代	
(2) 硬質小麦新品種『ちくしW43号』の現地実証ほの設置	
(3) 施設園芸農家を対象とした高温対策勉強会の開催	
(4) 全国優良経営体表彰で全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞	
(5) 第24回福岡県農林水産まつりで農林水産賞名誉賞を受賞	
(6) 福岡県青年農業者会議「意見発表の部」で県知事賞を受賞	
<b>3 参考資料</b> .....	13
(1) 普及指導センターの活動体制	
(2) 令和6年度農業生産の概要	
① 気象の概要	
② 主な品目の生産概要	
(3) 主な実証ほ・展示ほ一覧	
(4) 現地活動情報一覧	

# 1 普及活動の主な成果

## (1) 環境に配慮した農業生産技術の推進と新産地育成

### 1 課題化の背景

令和4年3月策定の「福岡県農林水産振興基本計画」では、目指す方向の一つとして「持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進」が位置付けられています。センター管内での持続可能な農業を実現するため、化学肥料低減技術、化学合成農薬低減技術及び温室効果ガス削減技術といった環境に配慮した農業生産技術の定着に取り組む必要があります。また、新たな品目として導入が始まった白ねぎ、さつまいもは、環境に配慮した栽培に取り組む産地育成を目指しています。

### 2 対象概況

JAたがわ生産部会（麦・大豆部会 156 戸、添田園芸部会 38 戸、赤村産直の会 5 戸、イチゴ部会 11 戸、アスパラ部会 13 戸、ナス部会 15 戸、ミニトマト部会 4 戸、小松菜部会 20 戸、花き部会 59 戸）、なし生産者 11 戸、（株）鳥越ネットワーク、白ねぎ生産者 7 戸、さつまいも生産者 2 戸

### 3 活動の内容

#### (1) 環境に配慮した技術の導入

アスパラガス、トルコギキョウ及びケイトウ生産者に対し、過剰な施肥を抑制するため、土壌診断結果に基づく施肥改善の提案を行うとともに減肥展示ほを設置しました。

また、ハダニ類とアザミウマ類への天敵、ピーマンの病害抵抗性台木と防蛾灯、ケイトウの防蛾灯、すいかとさつまいもの生分解性マルチについて試験を行い、成果のあった新技術を講習会で推進しました。さらに、温室効果ガス削減に効果がある直進アシスト機能のついた農業機械の実演会を開催しました。

#### (2) 環境に配慮した新産地の育成

白ねぎとさつまいもの新産地育成に向け、関係機関と連携して、栽培方法を統一するための栽培暦を作成、販売方法を踏まえた品種を選定するとともに、省力化のための機械移植及び適期の栽培管理について指導を行いました。



直進アシスト機能付きトラクタ実演会



さつまいもの移植機試験

# 1 普及活動の主な成果

## 4 主な成果

### (1) 環境に配慮した技術の導入

土壌診断結果に基づく施肥改善の提案により、適正な量や時期での施肥が実現するとともに、減肥展示ほどは品質の向上が図られました。

いちごとミニトマトはハダニ類とアザミウマ類の天敵利用、ピーマンは青枯病の抵抗性台木と緑色LED防蛾灯の導入、ケイトウの黄色LED防蛾灯の導入で、病害虫の被害が軽減されました。

すいかとさつまいもは、生分解性マルチの導入により、片付け作業の省力化と廃棄処理費用の削減が可能となりました。

#### 化学肥料低減農家

R5：6戸 → R6：13戸

#### 化学合成農薬低減農家

R5：67戸 → R6：83戸

#### 温室効果ガス排出量削減農家

R5：18戸 → R6：25戸

### (2) 環境に配慮した新産地の育成

関係機関と連携して推進した結果、白ねぎは7戸が1.1haを作付けし、部会組織が結成され市場出荷を開始しました。

さつまいもは、2戸が80aを初めて作付けし、地場の食品販売企業を通して、ふるさと納税の返礼品として販売しました。



ピーマンの緑色LED防蛾灯試験



すいかの生分解性マルチ試験



J A たがわ白ねぎ部会設立総会

## 5 今後の取組

アスパラガス、なす、小松菜、トルコギキョウ、ケイトウ生産者の土壌診断を継続し、診断結果に基づく施肥改善を提案し化学肥料の低減を推進します。

化学農薬に頼らない防除技術や温室効果ガス削減技術の実証ほ設置を継続し、成果のあった新技術は経営評価を行った上で、講習会で積極的に推進します。

白ねぎとさつまいもは、安定生産と販売体制の確立、部会組織活動、生産量の拡大、減化学肥料栽培を支援します。

# 1 普及活動の主な成果

## (2) 香春町の農業・農村の活性化

### 1 課題化の背景

都市近郊の中山間地に位置する香春町の農業は、水稻を主体とし、花や露地野菜といった多様な品目のほか、特産品として干し柿、ゆず、レンゲ米等が生産されています。一方で、担い手の減少と高齢化に伴う集落機能の低下、鳥獣被害や耕作放棄地の拡大が危惧される状況となっています。また、特産品の生産量は漸減傾向で、既存品目の維持拡大と新たな特産品による活性化が必要となっています。

そこで、令和4年度から多様な担い手の確保・育成と強化に向けた取組とあわせて、既存特産品の生産強化、新たな特産品の導入に向けた支援を行いました。

### 2 対象概況

集落ビジョン作成に取り組む地域、集落営農組織（1組合）、農事組合法人（2法人）、JAたがわ採銅所園芸部会（28名）、道の駅香春 農業者部会（219名）

### 3 活動の内容

#### (1) 多様な担い手の確保・育成と強化

町、JA、普及指導センターによる担い手会議を開催し、対象地区の今後の経営規模の意向や後継者に関するアンケートを行うとともに、10年後の目標地図の作成や地元協議を実施しました。また、地域の担い手となる集落営農組織に対し、麦や飼料用米の安定生産に向けた栽培指導や経営支援を実施しました。

#### (2) 有利販売のための仕組みづくり

町、JA、商工会、道の駅、普及指導センターによる特産品推進検討会を開催し、各品目の課題整理と推進方針について検討しました。レンゲ米、干し柿については生産者を含めた特産品づくり協議会を設立し、生産拡大に向けた協議を行いました。

#### (3) 地域に適したものづくり

既存特産品の干し柿については、原料渋柿の新植検討会や視察研修を実施しました。また、新たな特産品については、ホオズキ、さつまいも、ピーズで実証ほを設置し、香春町での栽培適性を確認して、特産品とできるかの評価を行いました。さつまいもについては、品種ごとに生育状況を確認し、収穫、貯蔵までの特性を把握しました。ホオズキについては、新規生産者に対し重点指導を実施し、栽培技術の習得を図りました。

# 1 普及活動の主な成果

## 4 主な成果

### (1) 多様な担い手の確保・育成と強化

中組地区及び五徳地区において、アンケート及び地元協議を実施し、10年後を目標とした集落ビジョンが策定されました。

**集落ビジョン作成数 R3：0 → R6：2**

### (2) 有利販売のための仕組みづくり

特産品推進検討会において、レンゲ米や干し柿、ゆずをはじめとする7品目について品目別に取り組方針を策定し、関係機関と生産者による特産品づくり協議会を設立しました。レンゲ米については、令和6年度から福岡県エコ農産物認証制度で認証されたレンゲ米の有利販売を行いました。

### (3) 地域に適したものづくり

関係機関と連携し、新たな特産品候補として、ホオズキ、さつまいも、ピーツを選定し、ホオズキは道の駅を中心として生産拡大を図ることとなりました。

**新たな特産品候補数 3品目**

**新規品目導入農家数 5戸**

(ホオズキ2、さつまいも2、ピーツ1)



田植前に一面に咲いたレンゲ

## 5 今後の取組

これまでの集落ビジョン策定の手法を活かし、他地区でのビジョン策定支援を行います。また、集落営農組織に対し、飼料米や麦を中心とした経営改善提案及び機械導入支援を実施します。

レンゲ米は、令和8年度からの全量エコ認証取得に向けた取組を支援します。

干し柿は、新植の園地を中心に栽培管理指導を行うとともに、実証試験で確認した収穫後の冷蔵による加工期間の延長及び追熟（着色）効果について、講習会を通じてJA園芸部会以外の生産者への普及拡大を図ります。

さつまいもは、栽培から収穫、貯蔵までマニュアル化し、普及推進に向けて取り組みます。

# 1 普及活動の主な成果

## (3) 新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援による担い手育成

### 1 課題化の背景

田川地域の基幹的農業従事者数は、過去5年間で17%減少し、65歳以上の割合は80%と、県平均の66%を大きく上回っていることから、地域農業の担い手の育成が急務となっています。また、女性の認定農業者は着実に増加していますが、更なる女性農業者の活躍促進が求められています。そこで、地域の担い手を育成するために、令和4年度からの3年間、新規就農者の確保育成と女性農業者の経営参画支援に取り組みました。

### 2 対象概況

就農希望者、新規就農者、認定新規就農者13名、女性認定農業者8名、女性農村アドバイザー等22名

### 3 活動の内容

#### (1) 新規就農者の確保と育成

市町村と連携し、就農相談への対応や就農計画の策定支援を行いました。また、経営開始資金の受給者を対象に、関係機関で構成したサポートチームが現地指導を実施し、計画達成に向けた栽培技術の向上支援や経営面での助言を行いました。

#### (2) 女性農業者の経営参画

女性農業者の経営参画を目指し、女性が活躍する経営体の視察研修や交流会により、女性農業者の経営発展への意欲増進を図りました。

#### (3) 新たな認定農業者の育成

関係機関と情報を共有しながら、新規就農者が認定農業者へステップアップし、より安定した経営が実現できるよう、経営改善計画策定に向けた支援を行いました。

### 4 主な成果

#### (1) 新規就農者の確保と育成

新規就農者数 25名 (3年間)  
就農計画策定者数 15名 (3年間)

#### (2) 女性農業者の経営参画

新規女性認定農業者数 3名 (3年間)



女性農業者の経営視察研修

#### (3) 新たな認定農業者の育成

新規認定農業者数 25名 (3年間)  
※うち認定新規就農者からの  
ステップアップは、5経営体

### 5 今後の取組

新規就農者の経営安定に必要な支援を継続し、認定農業者へステップアップしていけるよう取り組みます。また、女性認定農業者の育成に向けた支援を継続します。

# 1 普及活動の主な成果

## (4) 水田農業担い手の経営強化

### 1 課題化の背景

水田農業の担い手の経営強化のため、これまで、麦・大豆の収量及び品質向上に向けて取り組んできました。小麦については穂揃い期追肥の徹底を指導し、タンパク質含有率が県内上位となっており、生産を拡大していくことが望めます。大豆は部分浅耕—工程播種の導入や適期作業を推進することで、令和4年から大豆採種ほが設置されており、基準を満たす種子の生産が必要です。そこで、収益性の高い硬質小麦の面積拡大と大豆の安定生産に向けて取り組んでいます。

### 2 対象概況

集落営農組織 21 組織  
JAたがわ麦・大豆部会  
JAたがわ大豆種子生産組合

### 3 活動の内容

#### (1) 硬質小麦の面積拡大

硬質小麦の面積拡大を目的として、県内トップクラスの品質を維持するため、栽培管理情報を提供し、適期防除や雑草管理、穂揃い期追肥の徹底を図りました。



硬質小麦（ラー麦）

#### (2) 大豆の安定生産

講習会や現地検討会を開催し、適期播種、病虫害防除の徹底を図るとともに、新たな種子生産者に対して個別指導を行いました。

また、近年の梅雨明け後の乾燥に対応するため、出芽以降、暗きよの栓を閉めたままにしておく安定生産展示ほを設置しました。

### 4 主な成果

#### (1) 硬質小麦の面積拡大

令和6年産のタンパク質含有率は、約12%と県内トップクラスを維持し、令和7年産作付面積の割り当てが10ha増加しました。

#### 硬質小麦の栽培面積

R5: 75ha → R6: 85ha

#### (2) 大豆の安定生産

播種時期に雨が多かったものの、7月末までに播種を完了することができました。

安定生産展示ほでは、土壌水分を維持することにより、収量及び大粒率の向上を確認しました。

展示ほ「暗きよ開」「暗きよ閉」

収量 130 kg/10a

→ 203 kg/10a

大粒率 47% → 70%

### 5 今後の取組

引き続き、小麦の穂揃い期追肥や大豆の適期播種、乾燥対策や病虫害対策を徹底し、水田農業担い手の経営改善を進めていきます。

# 1 普及活動の主な成果

## (5) 信頼される小松菜産地の育成

### 1 課題化の背景

J Aたがわ小松菜部会では、所得安定を図る観点から、加工用小松菜の契約取引に取り組んでいます。しかし、7月から9月にかけては、高温による発芽不良や葉先枯れといった生育不良で生産が不安定なため、夏期の出荷量を確保することが課題となっています。また、消費者の食品安全への関心が高まっていることを背景に、部会として異物混入対策や農薬の安全使用に係る生産工程管理の改善に取り組み、食品衛生や労働安全等リスクマネジメントの改善に対する意向がありました。

### 2 対象概況

J Aたがわ小松菜部会 21 戸  
うち主要農家 14 戸

### 3 活動の内容

#### (1) 夏期における生産量の安定

講習会を開催し、寒冷紗被覆によるハウス内の昇温抑制対策を指導するとともに、新品種の高温耐性や収量性を比較し、耐暑性の高い品種を提案しました。



品種試験 (田川市)

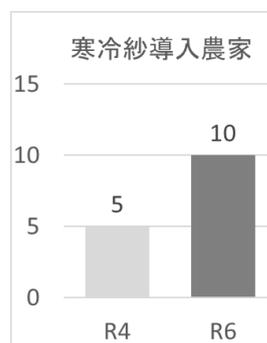
#### (2) 生産工程管理による生産改善

県GAP認証チェックシートを活用し、農薬の正しい保管方法や調製器具の整理整頓等を指導しました。あわせて、事故発生時の対応マニュアルの作成を支援し、リスクマネジメントに対する意識付けを促しました。

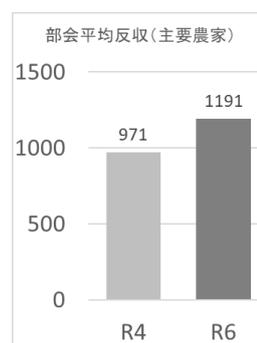
### 4 主な成果

#### (1) 夏期生産量の安定

寒冷紗の導入や耐暑性品種の作付により、令和6年度の夏期の10a当たりの平均収量が増加し、契約取引分を安定的に供給できました。



寒冷紗導入農家推移



主要農家反収推移

#### (2) 生産工程管理による生産改善

2戸の部会員が県GAP認証を部会として初めて取得しました。

### 5 今後の取組

耐暑性品種の比較試験を継続するとともに、各種の高温対策資材の導入を推進し、安定生産を図っていきます。

# 1 普及活動の主な成果

## (6) いちじく『とよみつひめ』産地の強化

### 1 課題化の背景

J Aたがわいちじく部会では県で育成した『とよみつひめ』を導入し、施設での高品質安定生産を柱に産地化を進めてきました。しかし、近年は生産者の高齢化による栽培面積の減少や樹勢の低下、高温障害果の発生を背景に、出荷量、秀品率ともに低下しています。そこで令和4年度からの3年間、産地の維持・拡大を目的として、栽培面積の拡大と秀品率の向上に取り組みました。

### 2 対象概況

J Aたがわいちじく部会 11戸

### 3 活動の内容

#### (1) 産地の拡大

J A広報誌を活用し、品種の特長や収益性を紹介することで新規栽培者の掘り起こしを行い、希望者と面談を行い、個別に指導しました。

#### (2) 品質の向上

管理講習会や個別巡回による栽培管理指導を実施し、高温障害果の低減や樹勢改善に取り組みました。また秀品率向上を目的に、高温対策のための循環扇や適切な水管理のためのかん水メーターの実証展示ほを設けました。さらに新規栽培者や重点指導農家に対して個々の状況を踏まえて単収目標を設定し、達成に向け支援を行いました。



高温対策展示ほ（循環扇設置）

### 4 主な成果

#### (1) 産地の拡大

新規栽培者が増加しました。

新規栽培者 R3：2戸→R6：3戸

#### (2) 品質向上

各農家の樹勢状況を把握した上で、樹勢改善が必要であった6戸に対し主枝更新せん定や改植を提案し、3年間ですべての対象農家が樹勢改善を図ることができました。

また、実証展示ほでは品質の改善が確認でき、循環扇を設置したほ場では低糖度果が低減しました。

さらに、単収目標を設定した対象農家は5戸のうち、3戸が目標を達成しました。

### 5 今後の取組

産地の維持を図るため引き続きJ Aと連携し、高温対策及び樹勢改善による単収向上に取り組んでいきます。

# 1 普及活動の主な成果

## (7) トルコギキョウ産地の維持及びケイトウ産地の拡大

### 1 課題化の背景

管内の主要な花き品目であるトルコギキョウとケイトウは、生産者の高齢化に伴う生産面積の縮小や部会員の減少により、共販出荷量が減少しています。

そこで、トルコギキョウでは産地維持を図るため、若手生産者の共販出荷率の向上支援とともに新規生産者の掘り起こしと育成に取り組んでいます。また、ケイトウでは産地拡大を図るため、新規生産者の掘り起こしと共販出荷本数の増加に向けた栽培技術指導に取り組んでいます。

### 2 対象概況

JAたがわ

東部トルコギキョウ部会	8戸
トルコギキョウ専門部	11戸
ケイトウ部会	10戸

### 3 活動の内容

#### (1) トルコギキョウ産地の維持

若手生産者の共販出荷率目標を設定し、個別巡回指導を実施しました。土壌分析に基づく適正施肥の指導や現地講習会を実施し、共販出荷率の向上に取り組みました。

#### (2) ケイトウ産地の拡大

栽培管理や収穫調製の動画を含む推進資料を作成しました。ヤガ類による被害軽減対策として、太陽光発電型黄色LED展示ほを設置し、防虫効果を実証しました。



ケイトウ黄色LED防蛾灯展示ほ（添田町）

### 4 主な成果

#### (1) トルコギキョウ産地の維持

多品目野菜との複合経営で新規生産者が1名増加しました。秋出しは高温条件下の厳しい栽培環境にもかかわらず、共販出荷本数を維持し、県内の最高単価で販売されました。

**新規生産者** 1名

**秋出し共販出荷本数** 146 (千本)

#### (2) ケイトウ産地の拡大

施設花き生産者が経営の多角化のため露地ケイトウを導入しました。虫害や連作障害の影響で、共販出荷本数は前年並みとなりました。

**新規生産者** 1名

**共販出荷本数** 57.5 (千本)

### 5 今後の取組

若手生産者、新規生産者の重点支援を継続するとともに、現地巡回、講習会で、栽培管理や防虫対策の指導を行い、共販出荷量の増加を目指します。また、新規作付を推進します。

## 2 管内の動き(トピックス)

### (1) 青年農業士、女性農村アドバイザーの交代

現在管内では青年農業士が4名、女性農村アドバイザーが7名活動されています。

青年農業士については、令和6年5月、福岡県農業士感謝状授与・認定証交付式で、田川市の川上晃司氏（いちご）が退任され、後任に福智町の仲村英治氏（普通作）が認定されました。



令和6年度退任者（川上氏：左）



令和6年度新任者（仲村氏：左）

また、女性農村アドバイザーについては、令和7年2月、福岡県女性農村アドバイザー表彰・認定式で、添田町の東博美氏（アスパラガス、露地野菜）と、福智町の太田理恵氏（なす）が退任され、後任に添田町の三島由香里氏（野菜果樹複合）が認定されました。



令和6年度退任者（太田氏：左、東氏：右）



令和6年度新任者（三島氏）

### (2) 硬質小麦新品種『ちくしW43号』の現地実証ほの設置

県では、耐倒伏性に優れ、収穫時期の降雨による品質低下の影響を受けにくい硬質小麦新品種『ちくしW43号』を育成しました。

これまでセンターが部分浅耕—工程播種技術の普及や穂揃い期追肥の徹底の指導に取り組んできた結果、JAたがわ麦・大豆部会における硬質小麦のタンパク質含有率は、毎年安定して12%以上を達成しています。その実績が評価され、令和7年に県下で栽培される『ちくしW43号』の40haのうち10haがJAたがわに配分されました。

令和6年11月に現地実証ほを設置しており、管内での栽培特性を確認して、令和8年産以降の普及拡大につなげていきます。



生育中の『ちくしW43号』  
(福智町)

## 2 管内の動き(トピックス)

### (3) 施設園芸農家を対象とした高温対策勉強会の開催

今年度は、9月まで最高気温が35℃を超える猛暑日が続き、ハウス内の温度上昇により、施設園芸作物の生育や収量に大きく影響しました。このため、10月24日に施設園芸農家を対象にJAたがわの主催により高温対策勉強会が開催されました。

本勉強会では、普及指導センターから近年の高温による農作物の収量・品質低下の実態や高温対策の事例を説明した後、資材メーカーから新たな遮熱ネットの紹介がありました。この遮熱ネットはハウス内の温度上昇の主な要因である近赤外線をカットでき、光の透過率が高い資材です。ハウス内の高温を抑制し、野菜類の収量や品質の向上が見込まれることから、農家の関心は高く、令和7年度に農家段階で実証試験を行う予定となっています。



高温対策勉強会

### (4) 全国優良経営体表彰で全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞

赤村の株式会社鳥越ネットワーク（代表取締役社長 鳥越耕輔氏）が、令和6年度全国優良経営体表彰の販売革新部門に県代表としてノミネートされ、全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞されました。株式会社鳥越ネットワークでは、国内各地の有機栽培に取り組む農業者と連携し、40品目以上のアイテムを安定的に出荷するとともに、自社農園では全国的に珍しい有機JAS認証セルリーを生産、販売しています。今回は、長年にわたって有機農産物へのニーズに対応してきた実績を基に、農業者主導の価格交渉により有利な取引関係を実現している点が評価されました。



全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞した  
株式会社鳥越ネットワーク（鳥越氏：中央）

## 2 管内の動き(トピックス)

### (5) 第24回福岡県農林水産まつりで農林水産賞名誉賞を受賞

「第24回福岡県農林水産まつり」で、添田町の花き生産者 井上茂之氏が農林水産賞園芸部門の名誉賞を受賞されました。

井上氏は、トルコギキョウの冷房育苗による秋出し栽培技術の導入に先駆的に取り組まれ、田川地域の花き農家の育成・指導に大きく寄与し、トルコギキョウ産地の育成をけん引してこられました。また、長年にわたり県域の花き生産者組織の役職を務め、筑豊地域だけでなく福岡県の花き振興に大いに貢献されてきたことが評価されました。



表彰式典での井上夫妻と知事

### (6) 福岡県青年農業者会議「意見発表の部」で県知事賞を受賞

令和6年12月23日、福岡県青年農業者会議が福岡市で開催され、田川地区農業青年クラブ連絡協議会から川崎町のぶどう園に勤務する野村翔氏が意見発表の部に出場しました。この大会は、県内の農業青年が集い、農業に対する意見や日頃取り組んでいるプロジェクト活動の成果を発表するもので、毎年開催されています。

野村氏は、就農のきっかけとなった園主との出会いや県農業大学校の仲間とともに農業への思いを熱く語り合った思い出、そして就農後に自ら手掛けたPR販売の取組について発表しました。青年農業者としての夢を堂々と語った結果、最高位である県知事賞を受賞し、令和7年7月に予定されている九州大会への出場が決定しました。



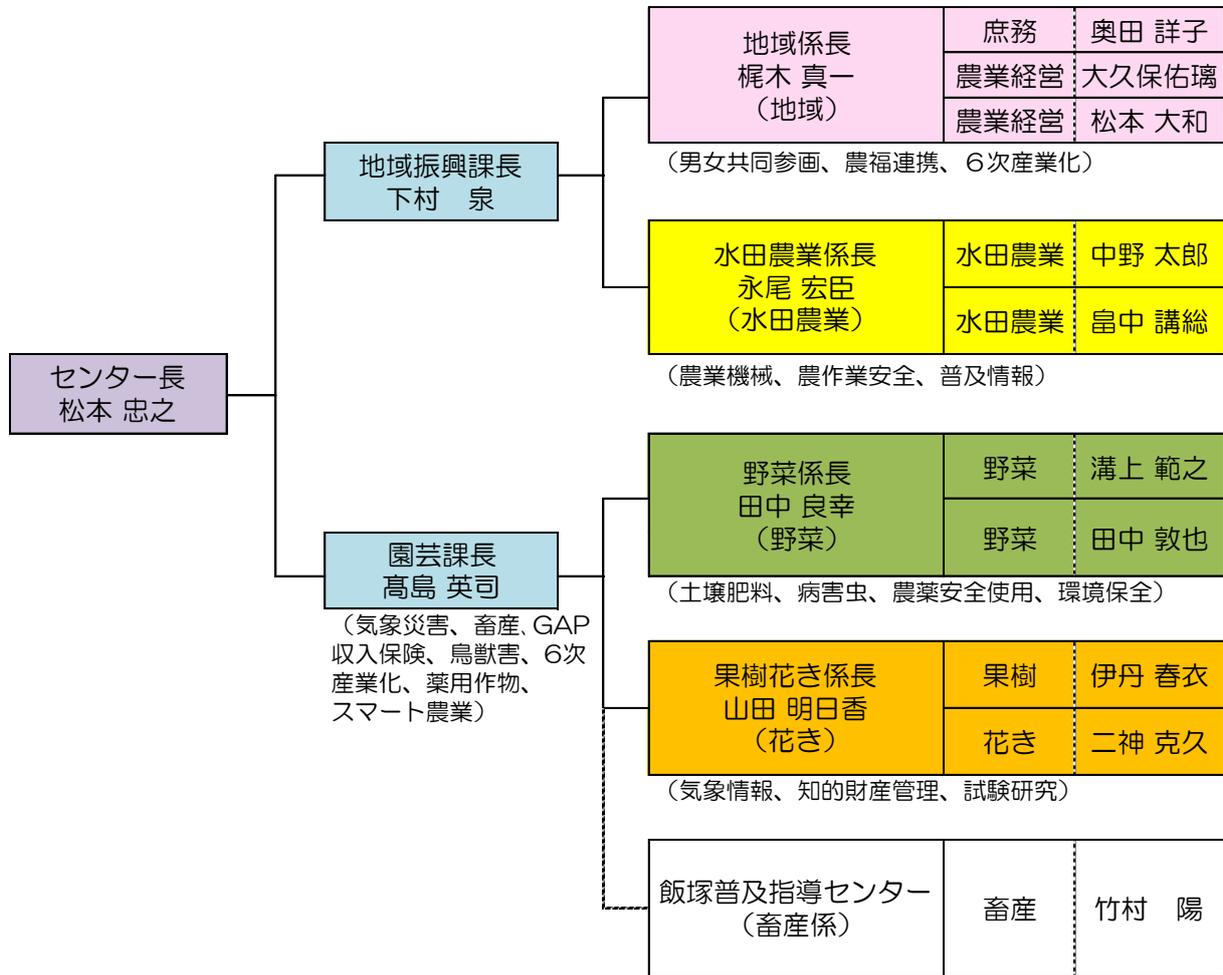
野村氏の意見発表



県知事賞を受賞した野村氏

### 3 参考資料

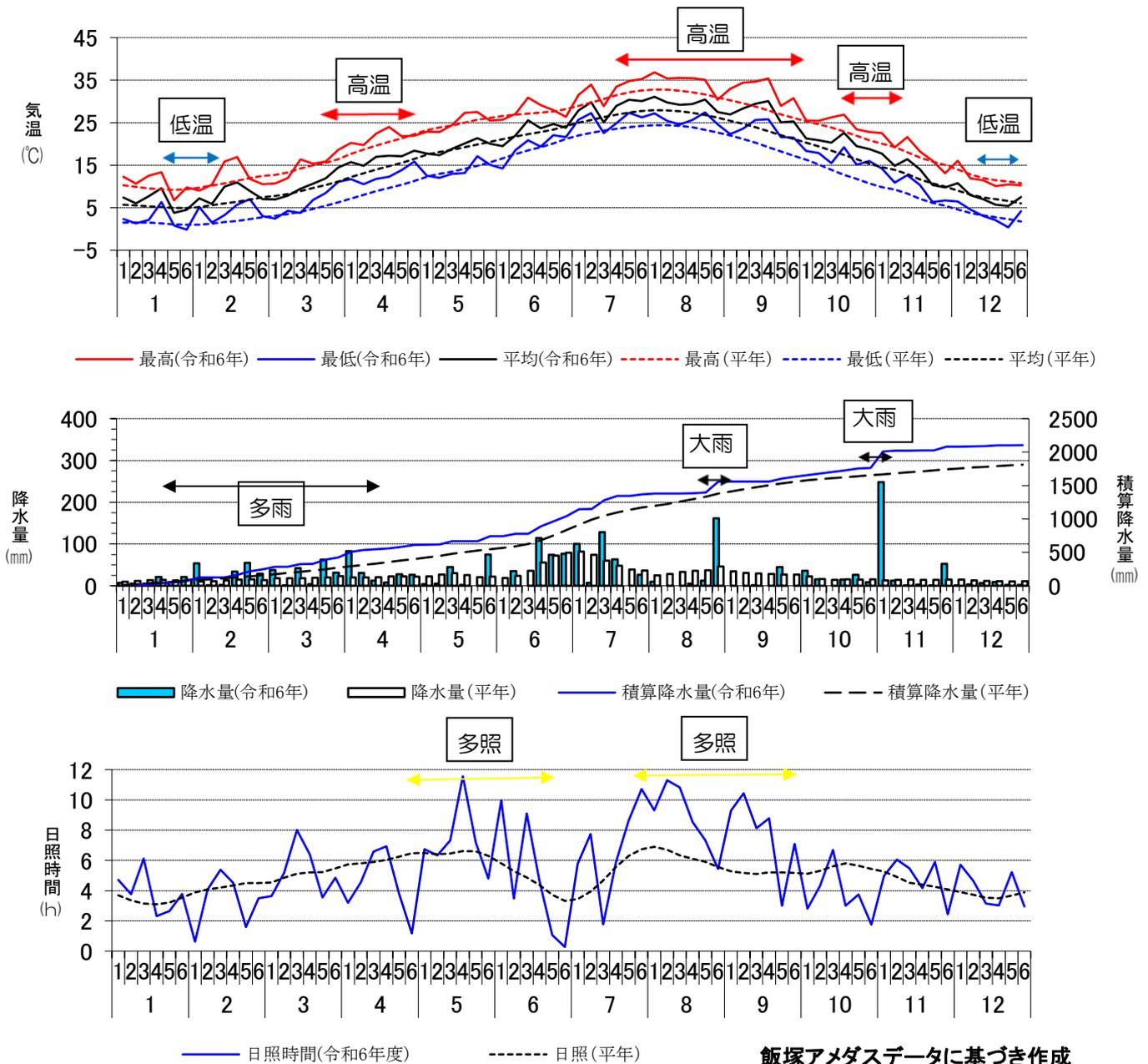
#### (1) 普及指導センターの活動体制



## (2) 令和6年度農業生産の概要

### ① 気象の概要

令和6年の平均気温は平年より 1.7℃高い 17.7℃、降水量は平年比より 13%多い 129 mm、日照時間は平年より 8%長い 1978.7 時間となりました。梅雨入りは平年より 13 日遅い 6月 17 日、梅雨明けは平年より 2 日早い 7月 17 日でした。その後、7 月中旬から9月中旬にかけて高温少雨となりました。台風の影響は平年より 2 回少なく、8 月下旬の 2 回でした。また、台風 21 号から変わった温帯低気圧の影響で、11 月 1 日から 11 月 2 日にかけて、総降水量が 200 mm を超える非常に激しい雨が降りました。



### 3 参考資料

#### (2) 令和6年度農業生産の概要

##### ②主な品目の生産概要

#### **水稲**:6～7月の雨、8月の高温で収量・品質が低下したが高単価で販売

水稲作付面積は1,783ha でした（品種割合：夢つくし64%、元気つくし18%、ヒノヒカリ16%）。6月中旬～7月中旬まで雨が続き、分げつが抑制されました。また、7月下旬からの高温乾燥により不稔病が発生し、特に『夢つくし』の収量が低下しました。病害では、紋枯病の発生が多く、県北東部における水稲の作況指数は94の「不良」でした。JAたがわ管内では白未熟粒が目立ち、3等米が52%を占めました。が、市場の品薄傾向により高単価で取引されました。

#### **麦類**:適期播種できたものの生育中後期に病害が発生し収量・品質が低下

令和6年産の麦類作付面積は677ha（小麦613ha、大麦64ha）でした。1～2月は雨が多く、麦踏みを始めとする管理作業が十分に行われませんでした。また、気温が高くコムギ黄斑病、オオムギ網斑病が多発しました。生育後期の4月に高温多雨となり赤かび病が多発しました。10a 当たりの収量は、180kg（小麦174kg、大麦221kg）と過去10年平均の287kg（小麦288kg、大麦240kg）を大きく下回りました。検査等級は、病害の影響で2等中心となりました。

#### **大豆**:高温・乾燥により莢数が少なく青立ち株が発生

大豆作付面積は378ha でした。播種時期に雨が多い状況の中、7月中にはほぼ播き終わりました。しかし、7月下旬から乾燥が続き10月まで高温少雨の傾向が続いたため、着莢数が少なくなりました。病虫害は、9月下旬からハスモンヨトウが多発し甚大な被害が発生しました。乾燥と高温の影響で落葉が遅くなり収穫が遅れるとともに、青立ち株が多発し収穫を断念したほ場も見受けられました。10a 当たりの収量は、令和5年の91kgを大きく下回る20kg程度（2月時点）となりました。

#### **いちご**:定植後の生育が前進し12月末までの出荷量が増加

早期作型の花芽分化は概ね順調でしたが、普通促成作型の花芽分化は高温の影響で遅れ、9月末中心の定植となりました。多くのほ場でヨトウムシ類による食害が確認されましたが、適期防除により被害の拡大を防ぐことができました。定植後は平年と比べ気温が高く推移したことから出荷開始が前倒しとなり、12月末までの出荷量は令和5年を上回りました。

#### **小松菜**:高温と害虫により出荷量が減少したが11月以降は安定的な出荷

4～6月までは収量性の高い春品種の作付で安定的な出荷が続きましたが、7～9月は猛暑日が多く、ハウス内の温度上昇による生育不良が発生し、収量と品質が大きく低下しました。10月中旬からは気温が低下したことにより、生育は順調になりま

## 3 参考資料

---

したが、多くのほ場でヨトウムシ類による食害が確認されました。11月以降は、冬品種への切り替えとともに、計画的な播種により、安定した出荷となりました。

### **アスパラガス**: 高温の影響で品質が低下し出荷量が減少

保温は2月上中旬に始まり、春芽の収量は大きな山谷もなく順調でした。4～5月は適期に立茎管理が行われ順調な生産となりました。6～8月は高温の影響により、ハダニ類とアザミウマ類の被害が増えた上、細芽や曲がりにより品質が低下しました。8月末の台風対策でハウスを閉めこんだことで斑点性病害の発生とチョウ目害虫の被害が見られ、9～10月の出荷量は令和5年と比べ88%と減少しました。

### **夏秋なす**: 初期生育は順調だが高温と台風の影響により出荷量が減少

計画的な畝づくりや予防防除の徹底により、定植初期は順調に生育しました。しかし、高温乾燥によるハダニ類の被害や日焼け果の発生に加え、8月末の台風10号の影響により収量が減少しました。特に、浸水や倒伏により樹勢が低下した株が多く見受けられ、8月末以降の出荷量は令和5年を下回りました。

### **秋冬野菜**: 早出し作型は病虫害の発生により出荷量が大きく減少

8～9月に定植したブロッコリーは、猛暑やヨトウムシ類、黒すす病の被害により、出荷量が大きく減少しました。はくさいは、ヨトウムシ類や軟腐病の被害が見られましたが、定期的な予防防除によって被害の拡大を抑えることができました。11月までは高温の影響で秋冬野菜は前進傾向の収穫となりました。

### **いちじく**: 成熟異常果の発生で出荷量は減少したが、高単価で販売

4月以降、気温は高めで推移し、日照条件が良く生育は順調で、収穫開始は平年並みの7月中旬となりました。収穫期の高温乾燥による成熟異常果の発生により、令和5年に比べ出荷量は減少しましたが、適切な選果・選別を徹底したことで市場の評価は高く、高単価で販売されました。

### **トルコギキョウ**: 高温により出荷は前進したが、県内最高価格で販売

主力の秋出し作型は、高温の影響により、出荷期の前進化や品質の低下が見られました。また、ヤガ類の多発による虫害被害も散見されました。しかし、高い技術力で適切な栽培管理を徹底したことで市場の評価は高く、県内の最高単価で販売されました。

### **ケイトウ**: 害虫の多発で栽培の難しい年であったが、出荷本数は維持

盆出し作型は、ヤガ類、カメムシ等の害虫が多発し、被害の大きいほ場もみられました。しかし、定期防除や適切な栽培管理を実施したほ場では出荷率が高く、共販出荷本数は令和5年と同程度を維持しました。

### 3 参考資料

#### (3) 主な実証ほ・展示ほ一覧

対象 作物名	課題名	結果概要	設置 場所
<b>(国庫関連)実証ほ・展示ほ</b>			
ケイトウ	太陽光パネルを電源とした黄色LEDによるヤカ類防除の検証	太陽光パネルを電源とした黄色LED防蛾灯は、電源のない露地ほ場においても使用が可能で、防蛾灯設置時点から収穫期までヤカ類による食害は増加せず、虫害抑制効果が実証できた。	添田町
<b>(県単関連)実証ほ・展示ほ</b>			
水稻	水稻奨励品種決定調査	新系統『ちくし102号』及び『ちくし105号』は、『夢つくし』に比べ収量は同等～やや高く、検査等級も良いため有望と思われた。	田川市
トルコギキョウ	秋出シトルコギキョウ栽培における大苗定植が生育と切り花品質に及ぼす影響	セルトレイの穴数(406穴、288穴)に関わらず、大苗区は慣行区に比べて主茎節数が増加した結果、草丈が伸長し、品質向上効果が実証できた。	添田町
<b>福岡県農業生産資材協会委託、肥料実用化展示ほ</b>			
水稻	水稻肥料「Jコート・レコアップ入り水稻一発肥料866」の現地適応性の検討	「Jコート・レコアップ入り水稻一発肥料866」は、慣行の「Jコート2000」と比べて、収量品質ともに同程度で、問題なく生育した。	香春町
夏秋ピーマン	夏秋ピーマンにおける基肥肥料「夏秋ナス一発2100」の検討	「夏秋ナス一発2100」の基肥施用は、4～9月まで肥効が継続し追肥作業が省力でき、慣行肥料と比べて収量が多かった。	赤村

### 3 参考資料

対象 作物名	課題名	結果概要	設置 場所
田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
いちご ミニトマト	施設野菜（いちご、ミニトマト）におけるハウス内環境データを活用した生産性向上技術の検討	いちごは、環境測定機器でハウス内のCO <sub>2</sub> 濃度をモニタリングしながら業務用ストーブを稼働させることで、厳寒期における昼間のハウス内CO <sub>2</sub> 濃度を外気と同等以上に保つことができた。 ミニトマトは、ハウス内の湿度の急激な変化が起きていない日は、裂果の発生割合が少ない傾向であった。	田川市 福智町
ピーマン	ピーマンにおける緑色LEDのヤガ類防除効果の検討	慣行の農薬散布による防除と防虫ネットの設置に加え、緑色LED防蛾灯の照射を行うことで、ヤガ類に対して高い防除効果が得られた。	赤村
小松菜	小松菜における耐暑性品種『夏蒼天』の栽培適応性について	ハウス内の高温下での発芽率は高く、葉先枯れ症状（チップバーン）の発生は確認されなかったが、既存品種と比較して株重が軽く、かん水を控えた後の伸長が遅く、収量が低かった。	田川市
なし	なし『新高』における果実袋の違いによるみつ症軽減効果の実証	袋の違いによる効果は判然としなかったが、外側が新聞紙で内側が褐色パラフィンの二重袋で袋内が高温になりやすく、みつ症の発生が多い傾向が見られた。	福智町 川崎町
トルコギキョウ	トルコギキョウの秋出し作型における新品種の検討	ピンク八重新品種『K537』について、花色、花形は優れていたが、枝数がとりにくく、茎の柔らかさに問題があることが確認された。	添田町 田川市
カーネーション	カーネーションにおける赤色LEDのアザミウマ類防除効果の検討	試験実施期間を通してアザミウマ類の発生が極めて少なく、赤色LEDによる防虫効果は判然としなかった。	福智町
トルコギキョウ	トルコギキョウの化成肥料減肥展示ほ	土壌分析に基づく減肥を実施した。残肥が多く高ECのほ場では立ち枯れが多かったが、適正なECのほ場では良好な生育であった。	香春町
養豚	発酵床豚舎における泥濘化防止技術の検討	発酵床の管理方法と資材の変更を実施し、泥濘化を軽減することができ、豚の死亡事故は大きく減少した。	赤村

### 3 参考資料

#### (4) 現地活動情報一覧

No	標 題	日付	係
1	高品質なそら豆の出荷を目指して ～JAたがわそら豆部会で出荷目合わせ会を開催～	5/10	野菜
2	田川地区農村女性グループ連絡研究会総会・研修会開催 ～女性農業者の活動を支援～	5/13	地域
3	大豆の播種作業での直進アシストトラクタ実演会を開催 ～温室効果ガス削減に寄与する農業の定着へ～	7/19	水田農業
4	気候変動に対応した産地形成を目指して ～なす安定生産・品質向上に向けた支援を実施～	7/23	野菜
5	大豆採種ほ現地検討会を開催 ～優良種子の安定生産を目指して～	8/6	水田農業
6	トルコギキョウの出荷率向上を支援 ～共販出荷本数の維持を目指して～	8/22	果樹花き
7	新規就農者向け営農基礎講座を開催 ～早期の経営確立を目指して～	9/3	地域
8	JAたがわそら豆部会が次年度の出荷量増加を目指す ～令和6年産生産販売反省会が開催される～	9/3	野菜
9	園芸品目の環境負荷低減に向けた取組を推進 ～安全安心な農産物生産と生産安定を目指して～	9/11	果樹花き
10	干し柿の原料となる柿の新植検討会を開催 ～香春町特産品の生産拡大に向けて～	10/22	果樹花き
11	サツマイモ実証栽培の収穫始まる ～収穫交流イベントも開催～	10/25	野菜
12	新規就農者を対象に農業機械研修会を開催 ～事故防止と適正な取り扱いを推進～	11/14	水田農業

### 3 参考資料

13	施設園芸農家を対象にスマート農業研修会を開催 ～生理生態を踏まえた最適な栽培環境を目指して～	11/19	野菜
14	田川地域新規就農者のつどいを開催 ～先輩就農者からの学びと仲間づくり～	11/19	地域
15	農業経営研修会「労務管理」を開催 ～短期労働力の確保における注意点を学ぶ～	11/20	地域
16	第24回農林水産まつりで農林水産賞名誉賞を受賞 ～花き産地の発展を願い添田町長を表敬訪問～	11/22	果樹花き
17	トルコギキョウ品種説明会を開催 ～品種選定を通じた経営安定支援～	1/14	果樹花き
18	田川4Hクラブ員が県青年農業者会議で県知事賞を受賞 ～意見発表の部で九州大会への出場が決定～	1/16	水田農業
19	JAたがわ川崎果樹部会せん定講習会を5年振りに開催 ～次年度のナシとブドウの安定生産を目指して～	1/17	果樹花き
20	田川農振協主催で農業経営研修会を開催 ～マーケティング戦略を踏まえた農業経営を目指して～	2/12	地域
21	JAたがわ白ネギ部会が設立され共販出荷を開始 ～機械化栽培体系による産地化を目指して～	2/12	野菜

田川普及指導センターのホームページに掲載中  
(<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/katsudou-tag2024.html>)



## 周辺地図



## 庁舎への交通アクセス

### JR等

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道  
「田川伊田」駅から  
徒歩約15分(1.2km)

JR日田彦山線・平成筑豊鉄道  
「田川後藤寺」駅から  
徒歩約20分(1.7km)

### 西鉄バス

田川市役所バス停から  
徒歩約10分(700m)

### 車

国道201号線「長浦」交差点  
から約6分(2.5km)



## 福岡県飯塚農林事務所 田川普及指導センター

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2741 番地の5

TEL : 0947-42-1428 FAX : 0947-44-1891

E-mail : [tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)

HP : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704901.html>

### 福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703427
登録年度 06	登録番号 0002